

第6回： 湖沼水質保全の今後の動向

開催日： 1985年2月13日～14日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 待望の「湖沼法」が成立し、いよいよ湖沼水質保全の本格的な推進が期待されます。

法による指定を受けた湖沼は、富栄養化防止のため、窒素・リンの流入量削減に向けて、具体的な対策の検討が開始されます。国の窒素・リンの一律排出基準で十分効果が期待できるのか、あるいは、目標の達成にはどの程度の上乗せ基準が必要なのか、早急に結論を出す必要があります。また、処理方法は何が最も適切で、効果があり、効率的なのか迷うところです。

(社)水質汚濁研究協会は、今まで湖沼の水質保全に努力してまいりましたが、これを機会に湖沼の水質保全の問題を改めて考えてみたいと思い、セミナーを企画しました。講演タイトル(講師/所属(当時)):

- 「湖沼法」成立の意義と今後の汚濁防止対策(小沢典夫/環境庁・水保局)
- 湖沼水質保全の今後の動向(合田健/国公害研)
- 湖沼における富栄養化のメカニズム(坂本充/名大)
- 水道水源としてのダム湖の水質管理(小島貞男/㈱日水コン)
- 湖沼の水質管理(須藤隆一/国公害研)
- 琵琶湖の現状(国松孝男/岐阜県短大)
- 霞ヶ浦の現状(村岡浩爾/国公害研)
- 生物学的窒素・リン同時除去(宮地有正/栗田工業㈱)
- 接触脱リン法によるリン除去(平沢泉/㈱荏原総研)
- 生物学的なリン除去(佐々木正一/オルガノ㈱)
- 回分式活性汚泥法による窒素・リンの除去(大久保泰宏/㈱西原環境衛生研究所)